

市民工学キャリアアッププログラム
議事録

第 8 回 2012 年 6 月 13 日 (水)

ゲストスピーカー：本田貴之 (M2, 島津製作所内定)

スーパーバイザー：加藤, 桑野

進行：天野和信 (M1, 井料研), 書記：中田諒 (M1, 井料研)

○ 概要

市民工学キャリアアッププログラムではこれまで、主に企画者（進行役）が取り上げた話題に関するディベートおよびグループディスカッションをおこなってきたが、今回、新たな試みとして自己 PR をおこなった。このことは、自分ひとりで人前で話す訓練、又、自己分析を始めるきっかけとなることを意図している。

今回行った自己 PR の持ち時間は 1 人 2 分とし、絶対に入りたい第一志望の企業等での面接の冒頭で、「2 分間であなたの PR を行なって下さい」と言われた状況を想定することとした。事前に進行役の天野さんが用意した資料には「自分の考えの根底（例えば：ある活動に対してそもそも何故それをしようと思ったのか、実際に行動をしている時に何を考えながら、行動したか、結果に対してどう感じたのかなど...）をよく考えながら PR の文章を作ってきてください」とのガイダンスがあった。なお、参加者は座席前方に詰めて着席した上で行うことで、緊張感を高める工夫をおこなった。

○ 自己 PR

発表者は各自、自分のタイミングで立候補して自己 PR をおこなった。さまざまな話題、PR の組み立て方がみられたが、話題については、部活動やアルバイトに関するものが比較的多い印象であった。ここで、個別の発表内容については割愛する。

○ 講評

参加者およびスーパーバイザーからは、以下のようなコメントが寄せられた（順不同）。

- ・ 何かを一生懸命に頑張った、どうゆう工夫をしてこんな改善をした、等とさまざまな PR があったが、そもそも「なぜ」それを頑張ろうと思ったのか、変えたいと思ったのか、多くの発表者が根底にあるモチベーションを明らかにしていない。
- ・ 自己 PR は、短い時間を使ってどれだけ自分を売り込むかが勝負。いろんなエピソードをすべて聞かせたい気持ちもあると思うが、面接担当者がすぐに理解できるように、内容はある程度まとめられており、明快であることが好ましい。原則的に話題はひとつに絞るべきである。

- ・ 一般的にみて、誰もがあたりまえに出来ることを頑張ったというエピソードは、自己 PR を間違って解釈しているのではないか。自分だけが体験した事、自分にしかできないことをピックアップしていくべきではないか。
- ・ 発表者の多くが、部活やサークル活動、アルバイトのことを話題にした自己 PR をしていたが、あなたたちが学生である以上、これらの話題をあまりに全面的に推していくことは、違和感を感じる部分があるのではないか。

○ その他

来週以降の具体的な活動案については、有志によるタスクフォースで検討することとなった。

以上